

小笠原諸島を舞台とした 生物多様性環境教育プロジェクト 『Bonin Infrastructure Initiative』

活動の場所

小笠原諸島



活動目的

- ①生物多様性保全や環境保全についての周知活動
- ②将来を担う技術者の環境意識向上
- ③環境配慮型技術の開発

活動内容

生物多様性 環境教育プロジェクト『Bonin Infrastructure Initiative』

世界自然遺産である小笠原諸島父島にアスファルト工場・営業所を構える当社は、2022年5月より生物多様性保全の新たなアプローチとして、生物多様性とインフラや人との共生について産学で考える、体験型の教育プロジェクトを実施中。プロジェクト発足時より延べ30名の学生が参加。

●勉強会

本プロジェクトの舞台である小笠原諸島や生物多様性、道路舗装といったテーマで事前調査を行います。また勉強会の中では、外部講師を招いた特別講義も開催しています。

●現地視察

参加者全員が実際に小笠原諸島父島に赴き、様々なアクティビティ体験を通して環境問題について学びます。

●視察後報告会

勉強会から現地視察まで、全体を通して学んだことや感じたことをレポートにまとめ、発表する最終報告会を開催。



PRしたいポイント

○自然保護地域を実際に訪れ、自然と触れ合いながら環境保全の方法についてを学ぶ事が出来る体験型の生物多様性教育プロジェクトであることや、全国各地より参加者を募っており、さまざまな専攻課程を持つ参加学生同士の交流の場としても機能しています。また勉強会から報告会まで約半年ほど時間をかけて多くの分野に触れるよう、生物多様性だけではなくインフラ整備・道路業界についても知ってもらう事で、他分野との共生について考えるきっかけとなるような教育プログラムの構築を意識しています。

活動効果、今後の展開 等

○本プロジェクトで得られた知見を企業活動に柔軟に取り入れることや、生物多様性の社内教育用コンテンツとしての活用など社内外問わず様々な方法での情報共有・発信を継続して行っています。また、小笠原諸島だけではなく日本国内のすべての生物多様性に係る重要な自然保護地域を対象としたプロジェクトとすることも今後検討していきたいと思っています。